

氏 名 浅川 伸  
学位の種類 博士（スポーツウエルネス学）  
学位記番号 博甲第 9607 号  
学位授与年月 令和 2 年 3 月 25 日  
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当  
審査研究科 人間総合科学研究科  
学位論文題目 大規模国際競技大会におけるドーピング検査員  
育成の課題とそのあり方に関する研究

主 査 筑波大学教授 博士（体育科学） 尾縣 貢  
副 査 筑波大学教授 医学博士 水上 勝義  
副 査 筑波大学教授 山口 香  
副 査 公益法人ラグビーワールドカップ 医学博士 河野 一郎  
2019 組織委員会理事・事務総長代行

## 論文の内容の要旨

浅川伸氏の博士学位論文は、東京 2020 大会のドーピング検査体制拡充対策の一環として実施されているドーピング検査員（以下、DCO と略す）の育成対策の実効性の検証を試みたものである。その要旨は以下の通りである。

### 【序論】

#### 1. 研究目的

東京 2020 大会では 6000 件を超えるドーピング検査が実施される予定であり、約 400 名の DCO が必要と想定されており、海外から招聘する DCO を入れても 100-150 名の DCO が不足することを、著者は問題点として指摘している。そこで、著者は DCO 育成対応を効率的に実施するための適正検査による対象群の絞り込み対応、及び模擬環境における実務研修を題材として、DCO 育成の観点からこれらの施策の実効性を評価し、将来の DCO 育成に還元するための知見を得ることを本研究の目的に設定している。

#### 2. 研究課題

この研究目的を達成するために、著者は、以下の 4 つの研究課題を設定している。

- 研究課題 1 DCO の育成・研修対応における模擬研修会の実施の過程を検証する。
- 研究課題 2 多数の応募者から適性を有する候補群を絞り込むための適正検査の有効性を検証する。
- 研究課題 3 映像教材の使用と模擬シナリオの実践を通して模擬研修会の実効性を検証する。
- 研究課題 4 指導役 DCO の評価を通して模擬研修会の有効性を検証する。

## 【本論】

### 1. 研究課題 1

本研究課題では、著者がプロジェクト全体の指揮統括責任者としてプログラムの全体の枠組み開発、及び進捗管理の役割を担い、英語能力や適性検査を踏まえた受講者の一次選抜、座学講習会の受講時評価による二次選抜、さらに二次選抜者を対象にした模擬研修会を実施し、その合格者を DCO 認定者とする一連のプログラムを作成、実施している。各過程においては各関係部局との折衝や意見調整を通してアクションリサーチの手法を用いている。

### 2. 研究課題 2

本研究課題では、東京 2020 大会に向けて JADA の web サイト、及び東京 2020 大会組織委員会の web サイトに設置した公募サイトを経由して応募した者 367 名を対象として、DCO 業務に求められる素養を有する候補者を選抜するために用いた適性検査の有効性を検証するとともに、選考基準として設置した適性検査の各項目における選考基準値の適正さを検証している。

応募者 367 名を対象として、第一段階の書類・語学力選考、第 2 段階の適性検査、第三段階までの座学講習会・実務研修会という一連の選考過程を実施することにより、最終的に 103 名を DCO として認定している。DCO 資格認定に至った群と至らなかった群の比較からは、総合評価において有意差傾向があったことを報告している。この結果より、今後の JADA における DCO 公募対応において、総合評価の結果を候補者選考の補助的指標として活用することは意味があると指摘している。

### 3. 研究課題 3

通常の DCO 育成過程においては、座学講習会と実務演習の日程的な開きがあることから、多くの受講生が座学講習会で履修した検査キットの取扱いを忘れてしまうことを、著者は問題点として指摘している。そこで、模擬研修会の受講に先立ち、各受講生に履修を義務付けた映像教材を用いた E-ラーニングの効果を検証している。

その結果、事前に映像教材による学習をしてきた群と学習をしてこなかった群では、検査手順の習得に大きな差が生じたことを報告している。

### 4. 研究課題 4

競技場と類似の模擬的な環境を設置し、ドーピング検査実務演習を行う模擬研修会は、初心者への導入工程として有効な方法となり得るか、加えて、この方法が受講生の指導役として関与した現役 DCO にとっての学習として有効であるかを検証している。

模擬研修会の実施に際して、受講生 145 名を、ドーピング検査の時における対象アスリートへの通告対応の仕方により、A：トーナメント系、B：個人・採点系、C：個人・記録系、D：チーム競技系の 4 グループに分けている。その有効性をアンケート法により分析している。

本模擬研修会の実施は、スポーツ競技の特性や検査手順の体系的理解に有効であるという結果を得ている。また、模擬研修会での指導役となる DCO にとっては、学びの機会として有効であり、有資格者の資格維持における研修項目としても有益な対応となり得ることを明確にしている。

## 【結論】

WADA が世界規模で展開している各国のアンチ・ドーピング体制のモニタリングにより、アジア地域をはじめとして、それぞれの国においてドーピング検査実施体制の構築、拡充が求められていることを著者は強調している。そのような状況の中、我が国は、アジア地域を中心に DCO 育成に対する支援介入を展開してきているが、本研究において有効性が検証された模擬研修会をベースとした DCO 講習会をパッケージ化して展開することは、東京 2020 大会のレガシーの世界規模での展開、還元観点からも意義があると指摘している。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

ロシアのドーピング違反が社会的な問題となり、インテグリティの強化が叫ばれているスポーツ界において、アンチ・ドーピングの活動を推進することは極めて重要なことである。本研究で得られた知見は、東京オリンピックに向けてのドーピング検査の実施に貢献するものであり、今後、大

規模国際大会を開催する国にとっても有効なものであるという高い評価を得た。

令和2年2月4日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（スポーツウエルネス学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。